

# I 調査結果概要

## 県内中小企業の経営状況

県内中小企業の景況感は、持ち直しの動きがみられる。  
先行きについては改善の動きがみられるものの、一部に不透明感がみられる。

- 経営者の景況感DIは、▲41.9と、前期比で1.1ポイント減少し、2期連続悪化した。業種別では、製造業は2期ぶりに改善し、非製造業は3期ぶりに悪化した。
- 景況感の先行きDIは▲17.7と、前回調査比で6.5ポイント減少し、5期ぶりに悪化した。
- 売上げDI、資金繰りDI及び採算DIは2期ぶりに改善した。
- 設備投資の実施率は19.3%で、2期ぶりに減少した。
- 来期については、売上げDI、資金繰りDI及び採算DIは当期DIより悪化する見通しである。

注1) 数値については、小数点第2位を四捨五入して表記しているため、DIを算出すると±0.1ポイントの範囲で差異が生じることがある。

注2) 「前期」：令和5年7～9月期、「当期」：令和5年10～12月期、「来期(先行き)」：令和6年1～3月期

### 1 経営者の景況感と来期の見通しについて

自社業界の景況感DIは▲41.9となり、2期連続悪化した。前期比で1.1ポイント減少し、前年同期比では3.1ポイント増加した。

業種別にみると、製造業(▲44.6)は2期ぶりに改善し、非製造業(▲40.0)は3期ぶりに悪化した。

#### <景況感DIの推移>

	当 期 (R5.10-12)	前 期 (R5.7-9)	前年同期 (R4.10-12)
全 体	▲41.9	▲40.8	▲45.0
製 造 業	▲44.6	▲47.3	▲44.7
非製造業	▲40.0	▲36.0	▲45.1

先行きについては、「良い方向に向かう」とみる企業は7.1%（前回調査(R5.7-9月)比▲3.5）、「悪い方向に向かう」とみる企業は24.8%（前回調査比+2.9）だった。

先行きDIは▲17.7（前回調査比▲6.5）と、5期ぶりに悪化した。

#### <来期の見通し>

	良い方向に向かう	悪い方向に向かう	先行きDI (R6.1-3)
全 体	7.1%	24.8%	▲17.7
製 造 業	7.1%	25.3%	▲18.2
非製造業	7.1%	24.4%	▲17.3

## 2 売上げについて

売上げD Iは▲7.6（前期比+10.2）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の売上げD Iより悪化する見通しである。

### 〈売上げD Iの推移〉

	当 期 (R5.10-12)	前 期 (R5.7-9)	前年同期 (R4.10-12)	来期見通し (R6.1-3)
全 体	▲7.6	▲17.8	▲8.5	▲23.6
製 造 業	▲8.4	▲19.4	▲4.6	▲22.3
非製造業	▲7.0	▲16.6	▲11.5	▲24.6

## 3 資金繰りについて

資金繰りD Iは▲16.8（前期比+5.0）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の資金繰りD Iより悪化する見通しである。

### 〈資金繰りD Iの推移〉

	当 期 (R5.10-12)	前 期 (R5.7-9)	前年同期 (R4.10-12)	来期見通し (R6.1-3)
全 体	▲16.8	▲21.8	▲20.8	▲21.5
製 造 業	▲18.0	▲24.4	▲20.3	▲20.1
非製造業	▲15.9	▲19.8	▲21.2	▲22.5

## 4 採算について

採算D Iは▲22.7（前期比+4.2）となり、2期ぶりに改善した。来期は悪化する見通し。

業種別にみると、製造業、非製造業ともに2期ぶりに改善した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の採算D Iより悪化する見通しである。

### 〈採算D Iの推移〉

	当 期 (R5.10-12)	前 期 (R5.7-9)	前年同期 (R4.10-12)	来期見通し (R6.1-3)
全 体	▲22.7	▲26.9	▲30.8	▲27.2
製 造 業	▲20.6	▲28.7	▲32.5	▲25.3
非製造業	▲24.2	▲25.5	▲29.4	▲28.6

## 5 設備投資について

実施率は19.3%となり、2期ぶりに減少した。来期は減少する見通し。

業種別にみると、製造業は2期連続減少し、非製造業は2期ぶりに減少した。

来期については、製造業、非製造業ともに当期の実施率より減少する見通しである。

### ＜設備投資の実施率＞

	当 期 (R5.10-12)	前 期 (R5.7-9)	前年同期 (R4.10-12)	来期見通し (R6.1-3)
全 体	19.3%	20.4%	20.8%	17.0%
製 造 業	22.9%	24.6%	25.3%	21.2%
非製造業	16.6%	17.3%	17.2%	13.9%

## 6 ヒアリング調査の概況（詳しくはP13以降を御覧ください）

### 【現在の景況感】

- （一般機械器具）・半導体製造装置向けの受注は依然として低調で、前期と同様不況である。
- （輸送用機械器具）・自動車メーカーの生産回復で、受注環境は概ねコロナ前の水準に戻ったと感じている。
- （プラスチック製品）・自社は比較的堅調だが業界全体の景況感は良くはない。特に住宅関係の動きが弱い。
- （食料品製造）・需要はコロナ前の水準に回復したが、原材料高や人手不足等から景況感は良くない。
- （印刷業）・全体的にペーパーレス化のあおりを受けている状況は変わらず、不況である。
- （百貨店）・宝飾品など高額商品の売れ行きが堅調であり、好況である。
- （スーパー）・値上げの影響もあるが売上げが増加しており、好況である。
- （建設業）・建築資材の価格が高騰する中でも住宅販売には特に影響はなく、景況感は普通。

### 【売上げ・採算】

- （電気機械器具）・EVなどに用いられるパワー半導体関連の受注が堅調に推移している。
- （金属製品）・設備の増強や自動化の取組で生産効率が上がり、採算性は改善した。
- （食料品製造）・季節商品の展開や、価格改定による値上げで売上高は前期比で増えた。
- （印刷業）・採算性はほとんど変わらない。
- （スーパー）・客数、客単価、販売点数いずれも増加し、売上高は増えた。
- （情報サービス業）・価格転嫁の進展に加え、不採算部門からの撤退により、採算性は改善した。

### 【今後の見通し】

- （一般機械器具）・半導体市況は持ち直しの兆しがある。自社の受注も徐々に回復に向かうのではないかとみている。
- （輸送用機械器具）・足元の景況感は普通であり、当面横ばいで推移する見通し。
- （食料品製造）・原材料高は当面続くとみており、利益率の高い新商品の開発に注力していく。
- （印刷業）・ダイレクトメールなどの受注が減少傾向であり、悪い方向に向かうとみている。
- （商店街）・先行きにあまり期待は持たず、どちらともいえない。
- （旅行業）・観光需要は堅調であり、引き続き良い方向に向かうとみている。
- （建設業）・好況でも不況でもない足元の情勢が当面続くとみている。